

JA飛騨ミート様が動物科学科へ子牛を寄贈

高校へ子牛寄贈10頭目



【岐阜・飛騨】飛騨高山高校は、同校の山田キヤンパスで子牛の寄贈式を開き、動物科学科の2年生がJA飛騨ミートから教材用雌子牛「やがい

岐阜・JA
飛騨ミート

さん」を受け取った。子牛の寄贈は2015年に始まり、今回は10頭目。同JAが、将来の飛

「やがいさん」と肥育
専攻班の生徒ら

肥育技術の研究・向上へ

騨牛生産を担う高校生の肥育技術の研究や向上により、生産農家の生産意欲向上にもつながってほしいという願いや、「雌牛肥育」が経済的に有効なことを学んでほしいという思いから毎年行っている。

寄贈式には同校の生徒や教員、同JA役職員、JAひだなど約20人が参加。生徒代表の岡田絆司さんは「生徒だけでは行えない取り組みなので、支えてくれるたくさんの方々に感謝し、責任

を持って育てたい」と意気込んでいた。

生徒らは、同校で行われる飛騨牛の授業で学んでいる。その一環で、高山市で行われるせり市の出品名簿の中から、JA飛騨ミートの協

力で生徒らがせり落とした。岐阜県の血統であることを最優先し、選んだのが三代祖具種雄牛である「やがいさん」だった。

「やがいさん」を大切に育て、さらに地域を盛り上げてほしい」と話した。

子牛を寄贈したJA飛騨ミートの志田浩一代表理事会長は「皆さんの頑張りが、飛騨地域の生産者の励みとなっている。『やがいさん』を大切に